

SELF-EVOLUTION AND CO-CREATION

時流を捉えたグループ全体戦略によって 持続的な成長を実現してきました

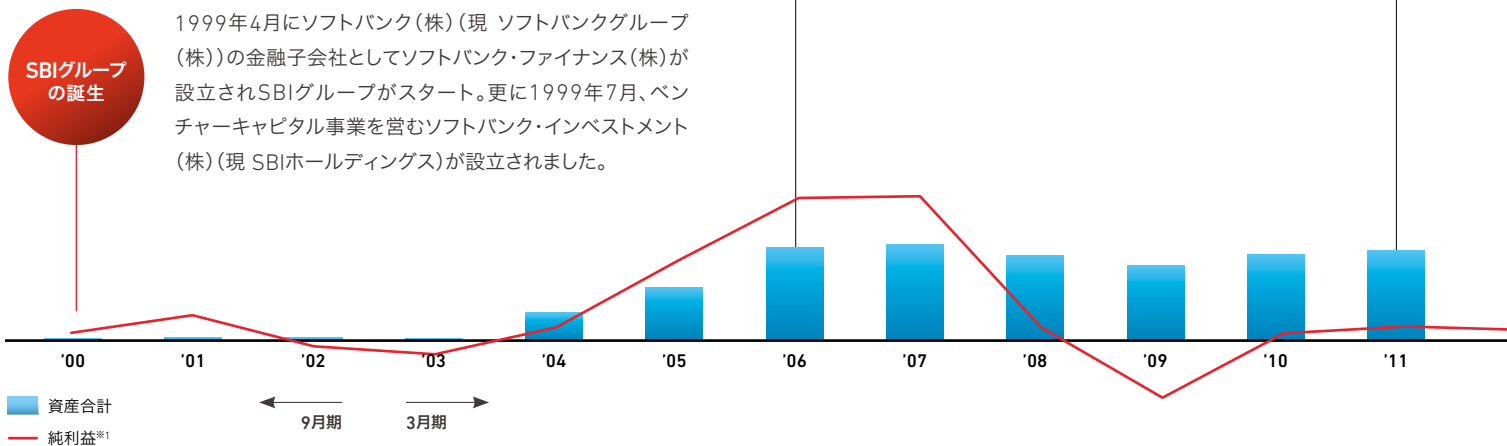
SBIグループは、日本におけるインターネット金融サービスのパイオニアとして1999年に設立され、証券・銀行・保険など幅広い金融サービスを手掛ける世界でも類を見ない「インターネット金融生態系」を構築してきました。これに加えて、ベンチャー企業の投資・育成や海外での金融サービス事業を主とするアセットマネジメント事業、医薬品・健康食品等の研究開発・製造から販売までを展開するバイオ・ヘルケア&メディカルインフォマティクス事業を主要3事業と位置付け、常に時流を捉えたグループ全体戦略によって自己進化を繰り返し、成長を遂げてきました。

当社グループが創業から培ってきた「インターネット金融生態系」は新たなテクノロジーと有機的に結合し現在の「デジタル金融生態系」へと変貌してきましたが、今後は急速に拡大するデジタルスペース（デジタル世界）の成長を取り込み、デジタル金融生態系を更に発展させた「デジタルスペース生態系」への飛躍を目指します。

全体戦略の変遷

日本のSBIから世界のSBIへ

SBIグループは、2005年に日本の所得収支が貿易収支を逆転したことを契機に、アジア地域を中心とした潜在成長力の高い新興諸国での投資体制の整備を加速させ、現地有力パートナーと共同でファンドを設立し投資を行ってきました。現在ではこのグローバル投資体制を一層強固にするとともに、アジアを中心に金融サービス事業の展開を推進しています。



社会動向

- 日本版金融ビッグバン
- インターネット革命

- 日本の貿易収支と所得収支の逆転

- リーマンショック

2022年3月期

純利益^{※1}

3,669億円

資産合計

17兆8,382億円

選択と集中

パリバショックを端緒に経済環境が悪化する中で、グループ規模の拡大から収益性を重視する経営へ転換するべく、SBIグループでは2011年3月期から事業の「選択と集中」を徹底してきました。具体的には、金融サービス事業における3大コア事業とのシナジーが弱い不動産事業をはじめとするノンコア事業の売却や、シナジーをより発揮しやすい形へのグループ内での組織再編などです。そこで創出したキャッシュをはじめとするグループのリソースを、金融サービス事業、アセットマネジメント事業、バイオ関連事業(現 バイオ・ヘルスケア&メディカルインフォマティクス事業)に集中的に投入することで、赤字事業の早期黒字化や黒字事業の更なる利益拡大といったグループ全体の収益性強化を実現してきました。

フィンテックの発展とブロックチェーンの活用

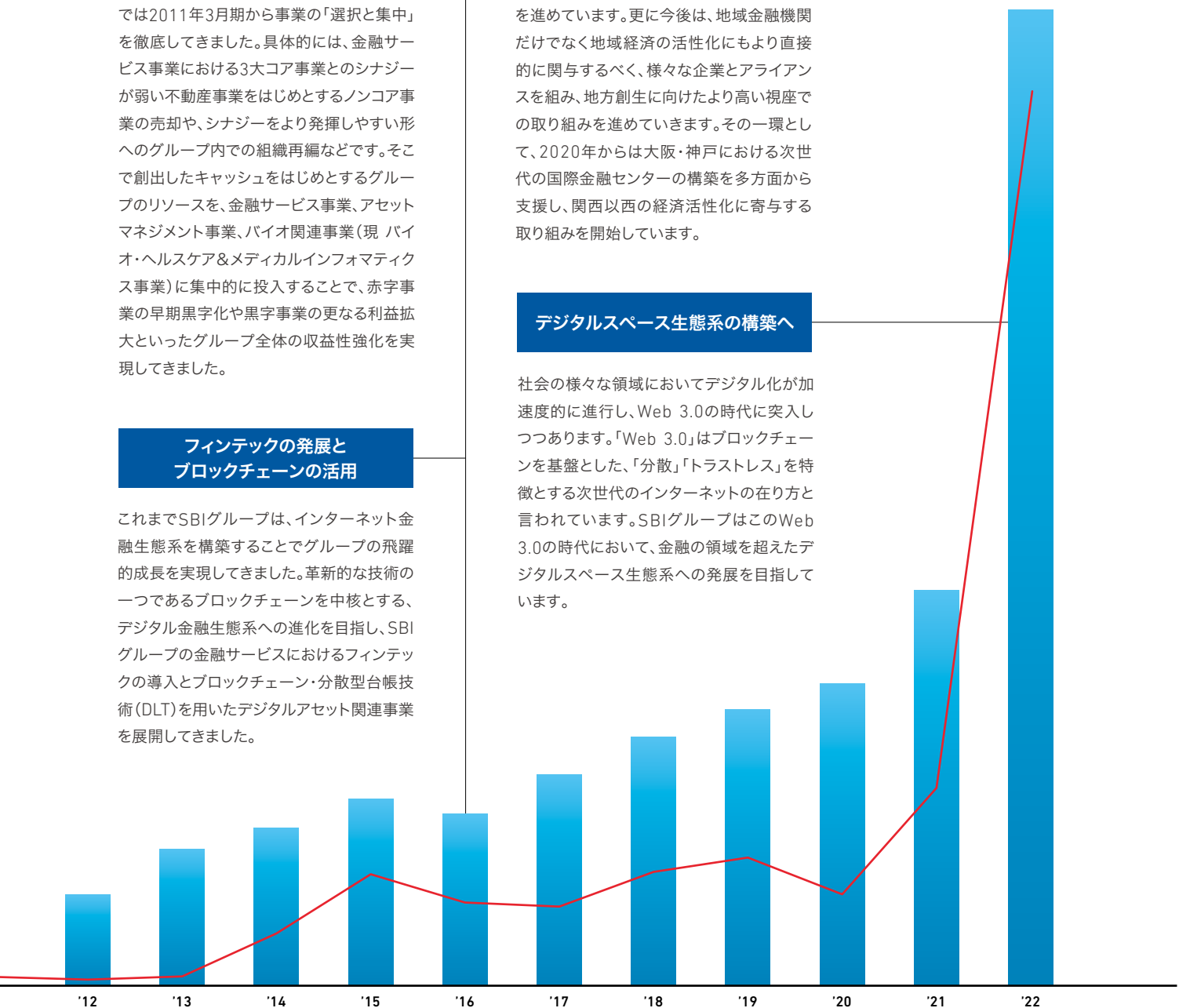
これまでSBIグループは、インターネット金融生態系を構築することでグループの飛躍的成長を実現してきました。革新的な技術の一つであるブロックチェーンを中核とする、デジタル金融生態系への進化を目指し、SBIグループの金融サービスにおけるフィンテックの導入とブロックチェーン・分散型台帳技術(DLT)を用いたデジタルアセット関連事業を展開してきました。

地方創生への貢献

SBIグループでは国家戦略である地方創生に貢献するべく、全国各地の地域金融機関との提携を拡大してきました。それによって、地域金融機関に質的転換を促し、収益力強化とそれに伴う企業価値向上を図る取り組みを進めています。更に今後は、地域金融機関だけでなく地域経済の活性化にもより直接的に関与するべく、様々な企業とアライアンスを組み、地方創生に向けたより高い視座での取り組みを進めていきます。その一環として、2020年からは大阪・神戸における次世代の国際金融センターの構築を多方面から支援し、関西以西の経済活性化に寄与する取り組みを開始しています。

デジタルスペース生態系の構築へ

社会の様々な領域においてデジタル化が加速的に進行し、Web 3.0の時代に入しつつあります。「Web 3.0」はブロックチェーンを基盤とした、「分散」「トラストレス」を特徴とする次世代のインターネットの在り方と言われています。SBIグループはこのWeb 3.0の時代において、金融の領域を超えたデジタルスペース生態系への発展を目指しています。



→
国際会計基準(IFRS)
に変更

※1 1999年9月期～2012年3月期は日本会計基準における当期純利益、2013年3月期以降は国際会計基準における親会社における所有者に帰属する当期利益を使用

※2 2012年3月期以前の「資産合計」は日本会計基準の「総資産」の数値を記載

※3 2003年3月期は決算期の変更に伴い、6ヶ月決算

● フィンテックの台頭
● アベノミクス

● 地方創生の推進

● 新型コロナウイルス
感染症の拡大

● ロシアによる
ウクライナ侵攻